

マイトーク MY TALK

発行：中央大学放送研究会OB会(会長/砂岡茂明)

住所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成22年6月

第12号

放研OB会の発展を願って

(12期・OB会長 砂岡茂明)



私が、OB会の運営に携わってから十年余りが経ちます。最初にお引き受けしたのが一九九八年の総会でした。いきなり幹事長ということ、些か任は重いと、の気もしましたが、割合と安易に引き受ける性格なので、一所懸命やるだけと無我夢中でした。当時の水上会長から、「君の思うようにやっていたいいよ」との言葉に励まされたのスタートでした。

九九年、水上会長が、大学の常任理事を勇退され、これからご自分の人生をと、矢先に急逝され、OB会としても大きな柱を失ってしまいました。しかし、水上会長の遺志を継いで会の運営を行うことが我々役員に課せられた責務と重く受け止め、藤原会長のもと各種の活動を展開してきました。マイトーク刊行、京都OB会、放研創立五十五周年の行事開催、二〇〇八年からは、四半期ごとに開催される幹事会に併せて、「OBのOB」によるOBのための講演会「や、仙台での幹事会開催など、首都圏以外の会員の出席の便宜も図ったりしてきました。

役員としては精いっぱい頑張ってきた積りではありますが、会費を納めて下さる会員の高齢化が進み、このところ、会員約六〇〇名に対して会費の納入者は一〇〇名前後となっており、財政基盤が非常に心もとない状況になっています。このため、幹事等役員の活動は全て個人負担になり、全くのボランティアとなつています。会費未納会員は、退会扱いとして、郵送費やマイトーク印刷代を節約することも検討しましたが、OB会が縁で同期会が復活した期もあり、いつか、そんな期が増え、「OB会があっ

て良かった」と言われるのを期待して、退会扱いを見合わせているところです。

こんな状況の中でも、将来に繋がる兆が見えてきました。創立五〇周年を一緒に企画した若手OBの総会や周年行事への出席が増えてきたことです。藤原前会長が中心となって続けているアカデミア部会（大学で行う放送講座、就職支援講座）も、現役の番組発表会の聴講参加などの地味な行動が奏しつつあるような気がします。

思えば体育会系の会と違って文化サークルの動として、色々な人が色々な思いで参加して、格な方向性をめざすでもなく連綿として今日迄、続て来た事の方が希有の集団であると思われ、現役時代の数年間を多くの先輩、後輩の諸氏とのわりを共有する中での体験は、正に、放研ゼミナール、ある意味では社会に飛び立つための実践現場として人間形成にプラスに、有意義に機能して来た力ながら尽力するつもりでありますので、ご指ご支援のほど宜しくお願いします。

第七回総会・懇親会のお知らせ

日時 平成二十二年七月三十一日(土)

十三時三十分から十六時

場所 品川プリンスホテル

メインタワー12F宴会場「彦根」

★OB会員制作による絵画・書・写真・陶芸等の作品展を会場にて行います。詳細は別途ご案内状でお知らせします

講演会

平成二十一年三月に藤原さん(八期)の「朗読修行中」、六月に星さん(十三期)による「女優達」に関する講演もありましたが、割愛させて戴き、今回は、黒澤さん(六期)十七期三人の「トークショー」及び榛葉さん(四期)の模様を紹介させていただきます。

仙台で幹事会・講演会開催

講師・黒澤 健(六期)

高橋俊次 記(十二期)

放研OB会の幹事会が昨年平成二十一年九月十七、十八日の両日、仙台の奥座敷、秋保温泉「ホテル蘭亭」で行われました。この会には黒澤健、林宏祐、佐久間良平さん(六期)、佐藤明夫さん(七期)、藤原尚武さん(八期)、河本道生さん(九期)、前田絃子さん(十三期)、そして十二期から近内紀久子、志村弘昭、砂岡茂明さんと高橋俊次の総勢十一人が



参加しました。

このうち河本さんはご本人によると卒業後、放研関係の集まりには初の参加ということで大いに歓迎されました。

幹事会で恒例となった講演は地元仙台在住の黒澤先輩のフィリピンの海での潜水関連話です。黒澤先輩は本業の防災機器関連の仕事の合間にはるか彼方のフィリピンの海に潜り、海底や生物の写真を撮って提供する仕事を趣味も兼ねながらしています。

潜る海は沖縄や伊豆七島ではダメだそうで、赤道に近いフィリピンの海でなければということでした。潜りの現地の治安は非常に悪く、武装勢力がウロウロしていると、現地では然るべきところに守られながらの潜水活動が必要ということでした。このような潜るに当たって関連するフィリピンの政治・治安・社会情勢の話が非常にリアルで強い印象として残りました。講演中の黒澤先輩の両脇にはパネルが山と積まれていました。撮った海の生物や風景の写真です。次々と珍しい生物が紹介されましたが、ため息をつくばかりでした。海の夕焼けなどきれいな写真も一杯見せていただきました。そして希望者にはパネルが無料で配られました。面白い話をありがとうございます。

もう一人の仙台在住者、佐久間先輩も多趣味な方で「書」や「陶芸」に取り組んでいます。会場にはその奮闘の成果が多数展示されていました。黒澤講演のあとコーヒープレークならぬ「抹茶ブレイク」の時間となり、佐久間先輩作の茶碗を使って近内、前田両女史が見事な手さばきでお茶をたて、仙台銘菓「白松が最中」とともにいただきました。「お代わり」の声飛び交っていました。

「抹茶ブレイク」のあと、砂

岡会長が持ち込んだプロジェクトで昭和三十年代初期の懐かしい写真が披露されました。

「うっ、あの人はダレだっけ」「こんな写真あるのか」。しばし神田にあった放研時代にタイムスリップしてしまいました。「ホテル蘭亭」は秋保温泉のなかでも有数のホテルで、温泉にゆっくり浸かったあとはいよいよ宴会です。

宴会では参加者全員が自己紹介と近況報告をおこないました。みなさんそれぞれにシニアライフを過ごされているようで、ボランティア活動、仕事、趣味など多岐にわたって話が出されました。

二次会は幹事部屋で行われました。佐久間先輩持参の映写機で古い放研時代のスライド写真を見る会となりました。十二期、十三期クラスにとっては「むかし」を覗くという感じでしたが、藤原先輩がOBや先輩の集まりに顔を出している写真で必ずネタタイをしているということが「発覚」して大笑いとなりました。真面目なお人柄の証拠写真でした。

翌十八日は早朝、期せずしてホテル自慢の露天風呂にみなさん集まり、他のお客さんもないことか



お詫びと訂正

マイトーク第十二号におきまして校正ミスと誤植がありました。筆者、並びに関係者の方々にご迷惑をおかけ致しました事、お詫び申し上げます。

訂正箇所

P 3 タイトル「あの頃君は若かった」が脱落しておりました。

P 4 上段21行目、(正)十四年間：↓(誤)十四時間：となっておりました。

編集責任者 浅見一策

『あのころ君は若かった』
〜今回はトークショーで〜

出演者：吉田填一郎・谷井 健

川口 稔 (十七期)
川口 稔 記 (十七期)

ラジオ日本吉田填一郎君の司会でトークショーが始まった。昨年十二月五日(土)駿河台記念館で開催されたOB会イベントのことである。今回はいつもの講演会に替え、谷井 健君を含めた我々十七期三名によるトークショーである。

初めは在学中の放研活動を振り返った。我々は昭和四十年(一九六五年)に入学したが、当時大学は

駿河台にあり古びた部室と地下のブラスターが活動の拠点であった。学内放送や大放連の報道及びドラマコンクールに出品するための番組を作り、文化祭ではサテライトスタジオを設置して放送した。

谷井君が口火を切った。毎年箱根駅伝取材のため家用車で選手の後を追うが、急な坂道でエンストを起こし取材を断念せざるを得なかった悔しい思い出。前を走るNHKの放送車で駅伝中継をしていた中大OBの北出清五郎アナが、家用車のフロントの「CHK」の貼り紙を見つけ、手を振ってくれたという嬉しい思い出を語った。放研と野球部は実況中継を通じ親しい関係にあり、谷井君は中大同期で卒業後プロ野球広島カープに捕手として入団した水沼四郎君と仲が良かった。

谷井君は卒業後、「薬の三共」に就職することが内定しており、水沼君は当時三共のルルのCMに出ていた歌手伊東ゆかりのファンだった。卒業の年、広島カープは宮崎でキャンプ。インし水沼君も参加していた。学園紛争のさ中で卒業試験の予定や励ましの意を込め、谷井君は水沼君に手紙を出した。いたずら心が湧き、差出人を『伊東ゆかり』と書いて送った。数日後、日刊スポーツ新聞のキャンプ便



りに「ルーキー水沼、伊東ゆかりからラブレター」と大きく載り大騒動になったという。

我々の世代は学園紛争を抜きにして語れない。混乱で卒業式が中止になったほどだ。授業料値上げ反対、学生会館の自治権確立、成田三里塚闘争等。放研は文化サークルだが、報道を目的とする以上取材で学生運動に関わらざるを得ない。成田空港建設反対の農民を取材した際、同期の川崎君は取り囲んだ機動隊による一斉検挙に巻き込まれ、地面に押し倒され意識朦朧。気付いた時には買ったてのコートがボロボロにされ、農民と抱き合っていたという。かと思えば、身長百八センチの窪田君(現堀井君)は、大学がバリエード封鎖されている時、食堂の半降ろしのシャッターに頭をぶつけ何針も縫う大怪我をした。包帯をグルグル巻きにしてキャンパスを歩いていると、学生運動活動リーダーが目ざとく見つけ飛んで来て、「お前も機動隊にやられたのか、良くやった」と肩を叩き誉めちぎる。窪田君は「ええ、まあ」と言葉を濁し、うつむくしかなかったという笑い話もある。

この日集まった会員は約四十名。当初の予想をはるかに上回ったのは元日テレ・アナウンサーの吉田君のお陰だろう。未だ「昔の名前」で人を呼べるのはご同慶の至りである。彼に巨人軍関係者のエピソードを聞いた。

長嶋終身名誉監督の人を惹きつけてやまないカリスマ性、間違はなく大監督への道を歩み出した原現監督の話。阿部捕手と亀井投手は正式には中大を卒業していないが、インタビュで「中大バンザイ」を叫ぶほど校名を高めることに貢献しているのだから、大学は卒業生同様の扱いをして当然だということ

ら放研貸切状態で、裸のおしゃべり会となりました。このあとおいしい朝食バイキングを食べ、ロビーでコーヒーを飲みながらそれぞれこの後の予定などを確認したあとOB会仙台集会は散会しました。

黒澤先輩の事務所へむかう人、友人に会いに行く人、真つ直ぐ東京へ帰る人などさまざまでしたが、十二期四人は恒例のミニ同期会と称して多賀城・松島・一関・平泉方面へ向いもう一泊しました。

放研ということだけで繋がった先輩、後輩、同輩がこうして一堂に会し、楽しく過ごせるということはホントにいいことです。松島で料亭の女将をやっている従妹にOB会や同期会の話をしたところ「エッ、何十年も！」と驚くとともに「いいな、羨ましい」と言っていました。放研の絆をこれからも大事にしていきたいものです

『今回はトークショーで』

出演者：吉田填一郎（十七期）

谷井 健（十七期）

川口 稔（十七期）

川口 稔 記（十七期）

ラジオ日本吉田填一郎君の司会でトークショーが始まった。昨年十二月五日（土）駿河台記念館で開催されたOB会イベントのことである。今回はいつもの講演会に替え、谷井 健君を含めた我々十七期三名によるトークショーである。

初めは在学中の放研活動を振り返った。我々は昭和四十年（一九六五年）に入学したが、当時大学は

駿河台にあり古びた部室と地下のブースターが活動の拠点であった。学内放送や大放連の報道及びドラマコンクールに出品するための番組を作り、文化祭ではサテライトスタジオを設置して放送した。

谷井君が口火を切った。毎年箱根駅伝取材のため自家用車で選手の後を追うが、急な坂道でエンストを起こし取材を断念せざるを得なかった悔しい思い出。前を走るNHKの放送車で駅伝中継をしていた中大OBの北出清五郎アナが、自家用車のフロントの「CHK」の貼り紙を見つけ、手を振ってくれたという嬉しい思い出を語った。放研と野球部は実況中継を通じ親しい関係にあり、谷井君は中大同期で卒業後プロ野球広島カープに捕手として入団した水沼四郎君と仲が良かった。

谷井君は卒業後、「薬の三共」に就職することが内定しており、水沼君は当時三共のルルのCMに出ている歌手伊東ゆかりのファンだった。

卒業の年、広島カープは宮崎でキャンプ。インシ水沼君も参加していた。学園紛争のさ中で卒業試験の予定や励ましの意を込め、谷井君は水沼君に手紙を出した。いたずら心が湧き、差出人を『伊東ゆかり』と書いて送った。数日後、日刊スポーツ新聞のキャンペーン



りに「ルーキー水沼、伊東ゆかりからラブレター」と大きく載り大騒動になったという。

我々の世代は学園紛争を抜きにして語れない。混乱で卒業式が中止になったほどだ。授業料値上げ反対、学生会館の自治権確立、成田三里塚闘争等。放研は文化サークルだが、報道を目的とする以上取材で学生運動に関わらざるを得ない。成田空港建設反対の農民を取材した際、同期の川崎君は取り囲んだ機動隊による一斉検挙に巻き込まれ、地面に押し倒され意識朦朧。気付いた時には買ったてのコートをボロボロにされ、農民と抱き合っていたという。かと思えば、身長百八センチの窪田君（現堀井君）は、大学がバリケード封鎖されている時、食堂の半降ろしのシャッターに頭をぶつけ何針も縫う大怪我をした。包帯をグルグル巻きにしてキャンパスを歩いていると、学生運動活動リーダーが目ざとく見つけ飛んで来て、「お前も機動隊にやられたのか、良くやった」と肩を叩き誉めちぎる。窪田君は「ええ、まあ」と言葉が濁し、うつむくしかなかったという笑い話もある。

この日集まった会員は約四十名。当初の予想をはるかに上回ったのは元日テレ・アナウンサーの吉田君のお陰だろう。未だ「昔の名前」で人を呼べるのはご同慶の至りである。彼に巨人軍関係者のエピソードを聞いた。

長嶋終身名誉監督の人を惹きつけてやまないカリスマ性、間違いなく大監督への道を歩み出した原現監督の話。阿部捕手と亀井投手は正式には中大を卒業していないが、インタビュで「中大バンザイ」を叫ぶほど校名を高めることに貢献しているのだから、大学は卒業生同様の扱いをして当然だということ



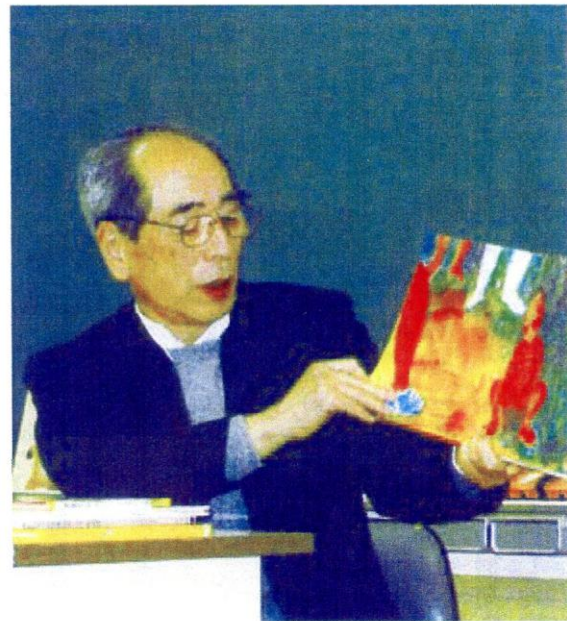
とも話した。

最後に半世紀以上も前に放研を立ち上げ、我が子のように育んだ故水上虎馬雄先生の思い出話になった。前述したように学園紛争真っ只中で運営委員を担った我々にとっては、忘れえぬ恩師である。

学生運動に関わる我々を非難するOBは多かった。だが

我々からすれば社会のひずみから目をそらす大多数の学生の方が不思議だった。水上先生はそんな我々の心情を汲み、時には行き過ぎを戒め、OBとの間に立つてくれた。デモで検挙された後輩の釈放の為、寝食を忘れ奔走してくれたこともある。卒業後吉田君が中大生を対象に十四年間も無料奉仕を続け、その間テレ朝矢島悠子アナほか二十名を超える局アナを輩出したアナウンサーセミナーも、学生を愛する先生との会話から生まれたものである。水上先生を旅行会に招待し、観光やゴルフを楽しんだ思い出が蘇った。

こうして約一時間のトークショーは終了した。その後、一階のレストラン「プリオール」で懇親会が催された。我々も喜んで出席したが、会費はしっかり取られた。慰労されるかと思っていたので面食らった。だが、聞いてみると会の台所は相当苦しそ



講師・榛葉 肇(四期)
林 宏祐 記(六期)

「読み聞かせと昔話」

うだ。イベントの参加者は少なく会費も集まらない。このままでは活動は続かないだろう。サザンオールスターズの歌に、「お互い出会えた場所に帰りましょう」という一節がある。放研は皆が輝く青春とかけがえない友に出会えた場所。幸い最近の現役はOB会に対して非常に協力的である。そして彼らが次の世代の会を担う。今こそ現役をサポートすることを中心に各人が持てる力を発揮しなければ、我々が出会えた場所は無くなる。消滅してしまう。頭の中で現状のOB会のタイトルが渦巻いた。

「俺たちに明日はない」。

放研OB会アカデミア部会が、OB会幹事会で

平成二十年六月に斎藤安弘さん(十二期)を講師に第一回の講演会を開催以来、平成二十年3回、平成二十一年4回と過去7回が開催されてきた。OB会幹事会役員の皆様の努力に感謝いたします。

平成二十二年三月二十五日に第八回「講演会」が中央大学駿河台記念館三二〇号室にて、講師 榛葉肇さん(四期)で「読み聞かせと昔話」をテーマとして講演が行われました。榛葉さんは現在、東京の大田区下丸子図書館で十数人のお仲間、幼稚園・小学校を対象に絵本の読み聞かせをしているグループの代表、世話人として活躍とのことでした。

講演では幼児・児童に絵本の「読み聞かせ」をしてあげることが成長に如何に影響を与えるのか等々活動内容の紹介を説明していただきました。質疑では桃太郎の絵本のストーリーが地方ごとに異なることなど細かく説明、解説されました。人生、生まれた時・小学校入学時、人生の終わりの3回絵本を見るチャンスが存するとの話には感銘しました。

放研OB会「講演会」も8回を数える回数となりましたが、仙台で黒澤健さん(六期)が講師で開催された「講演会」以外は駿河台記念館で行われております。幹事会・講演会修了後、現役十数人を交えての懇親会も楽しみにしております。平成生まれの現役、まさに孫の世代であり半世紀前の卒業時には考えも及ばなかったことで楽しみなことであります。「講演会」といつても、講師各人の体験や、リタイア後の社会参加の生き生きとした話等、堅苦しい話ではなく、楽しい時間だと考えます。OB各期でお誘いあわせて出席したら「講演会」も発展すると思います。



とも話した。
最後に半世紀以上も前に放研を立ち上げ、我が子のように育んだ故水上虎馬雄先生の思い出話になった。前述したように学園紛争真っ只中で運営委員を担った我々にとっては、忘れえぬ恩師である。

学生運動に関わる我々を非難するOBは多かった。だが

我々からすれば社会のひずみから目をそらす大多数の学生の方が不思議だった。水上先生はそんな我々の心情を汲み、時には行き過ぎを戒め、OBとの間に立ってくれた。デモで検挙された後輩の釈放の為、寝食を忘れ奔走してくれたこともある。卒業後吉田君が中大生を対象に十四時間も無料奉仕を続け、その間テレ朝矢島悠子アナほか二十名を超える局アナを輩出したアナウンサーセミナーも、学生を愛する先生との会話から生まれたものである。水上先生を旅行会に招待し、観光やゴルフを楽しんだ思い出が蘇った。

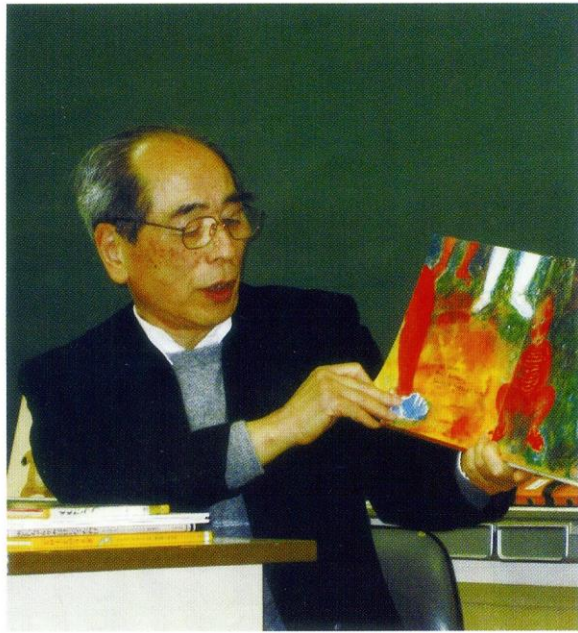
こうして約一時間のトークショーは終了した。その後、一階のレストラン「プリオール」で懇親会が催された。我々も喜んで出席したが、会費はしっかり取られた。慰労されるかと思っていたので面食らった。だが、聞いてみると会の台所は相当苦しそ

うだ。イベントの参加者は少なく会費も集まらない。このままでは活動は続かないだろう。サザンオールスターズの歌に、「お互い出会えた場所に帰りましょう」という一節がある。放研は皆が輝く青春とかけがえない友に出会えた場所。幸い最近の現役はOB会に対して非常に協力的である。そして彼らが次の世代の会を担う。今こそ現役をサポートすることを中心に関心を持って力を発揮しなければ、我々が出会えた場所は無くなる。消滅してしまう。頭の中で現状のOB会のタイトルが渦巻いた。

「俺たちに明日はない」。

「読み聞かせと昔話」

講師：榛葉 肇（四期）
林 宏祐 記（六期）



放研OB会アカデミア部会が、OB会幹事会平成二十年六月に斎藤安弘さん（十二期）を講師として第一回の講演会を開催以来、平成二十年3回、平成二十一年4回と過去7回が開催されてきた。OB会幹事会役員の皆様の努力に感謝いたします。

平成二十二年三月二十五日に第八回「講演会」、中央大学駿河台記念館三二〇号室にて、講師 榛葉さん（四期）で「読み聞かせと昔話」をテーマとして講演が行われました。榛葉さんは現在、東京大田区下丸子図書館で十数人のお仲間、幼稚園・学校を対象に絵本の読み聞かせをしているグループの代表、世話人として活躍とのことでした。

講演では幼児・児童に絵本の「読み聞かせ」をあげることが成長に如何に影響を与えるのか等活动内容の紹介を説明していただきました。質疑は桃太郎の絵本のストーリーが地方ごとに異なるなど細かく説明、解説されました。人生、生まれた時・小学校入学時、人生の終わりの3回絵本を見るチャンスが存するとの話には感銘しました。

放研OB会「講演会」も8回を数える回数となりましたが、仙台で黒澤健さん（六期）が講師で催された「講演会」以外は駿河台記念館で行われます。幹事会・講演会修了後、現役十数人を愛する先生も楽しみにしております。平成生まの現役、まさに孫の世代であり半世紀前の卒業時は考えも及ばなかったことで楽しみなことであり「講演会」といっても、講師各人の体験や、タイヤ後の社会参加の生き生きとした話等、堅苦しい話ではなく、楽しい時間だと考えます。OB各会でお誘いあわせて出席したら「講演会」も発展すと考えます。

早河 洋君を祝う会 (平成二十一年九月二十五日 於 山の上ホテル)

浅見一策(十四期)

同期の早河 洋君がテレビ朝日社長に就任するよ
うだと荒井君からの電話で知らされたのは昨年のG
Wの前あたりだったと思う。早速、日経の朝刊に目
を通すと政治経済面に、比較的大きく報じられてい
た。数年前、大学会館でか、どこであったか記憶
は定かではないけれど、既に役員の立場にいた彼
に冗談まじりに、いつそのことトップまで行つた
ら、と無責任なこと



を喋ったことを思い
出した。大変な事
だけれど、それが
現実のものとなつ
た。四十数年前、同
じ釜の飯と云うより
安酒を飲んだ同期と
して、みんなで祝杯
をあげないといかん
なと思ひ立ち、十四
期掲示板に投稿した
のだが、株主総会他
多忙を極めているご
本人に飲み会の話
をするには少し時間
がたつてからの方が
いいだろうと思ひ、
八月の下旬に早河

君に電話を入
れた。案の定、予
定が詰まってい
て九月は二十四
日と二十五日が
空いているとの
ことで、前々か
らOB会長、砂
岡さんのほうか
らでもお祝いし
たいとの相談も
あり、十四期主
催、OB会後援
のパーティーを



開くことになつた。早速、連絡をとると本人いわ
く、新宿西口、キクヤの二階でいいんじゃないかと、
懐かしい店の名前が飛び出してきた。あの頃、酒
肴を運んでくるオネエさんの名前はヨシコさんと
云う人であったなとすぐに出てくるから不思議
である…。

会場選びは新宿もいけれど、四年間過ごした駿
河台近辺がいいなと考えて、こじんまりとしている
けれど中々趣のある印象の山の上ホテルが良いと云
う事になった。

思えば卒業時に、追出しコンパの会場として
使った駿河台ホテルも、明大の敷地に埋没して今や
姿形も無い。その脇の坂道を上がった所にある坂の
上の雲ならぬホテルでお祝いの会は開かれた。同期
十四名、遠くは広島・岡山・京都・静岡から、そし
てOB会諸氏二十名が参会された。長谷部 勲君のプ

口並の司会のもと、長老、桃川さんの乾杯に続いて
早河君のスピーチはジャーナリストとして、又こ
からの会社経営のかじ取りとしての重責を感じさ
るものでした。持ち前のパワーと気力体力で難局
見事に乗り切って行くことだろう。

蛇足ながら、皆んなそこそこのいい年である事も
れて二次会は猿樂町の居酒屋で、三次会は後楽園
テル迄足を伸ばす始末。元気な証でもあり、これ
CHKと云うサークルに身を置いたがゆえかも知
ない。

「放研」を卒業して五十年

藤原尚武(八期)

昭和三十五年に卒業して五十年、ずいぶん昔の
で大学の講義など殆ど記憶にないが、放送研究会
過ごした四年間は、強烈な印象として私の脳裏に
き付いている。私の社会人五十年に必要な資質は
ここで培われたと思う。

私と放研との出逢いは昭和三十一年春、放研創
五年目、TV放送開始4年目のことです。テレビ
送局はまだ公園か、極く一部の喫茶店で楽しむ時
で、私は「放送」についてそれほど関心を持って
た訳でなく、ただ、受験戦争から解放され、四年
楽しく過ごせるサークル活動はないものかと探し
いた時、放研(CHK)の看板が目についた。入
受付に女性の先輩の姿もあり、男っぽい会員募集
景の中で一際明るく、和やかなサークルを予感さ
た。厳しい入会試験がないのもよかった。学科の

友奥野にも誘われ入会する事になった。

期待通り放研は楽しく、和やかなサークルでした。殊に毎年行われる合宿旅行は待ち遠しい行事だった。ところが、私はこの旅行で難問に直面した。旅行には、卒業した先輩も参加している事が多く、新入生の私とは、数年の年齢差があった。その先輩と会話が出来ないのである。尊敬語、謙譲語といった「敬語」の知識が全くなく、話すのが怖かったのです。間違えても厳しく叱られるという事はないのだが、間違えるのは恥ずかしい事でした。結局、先輩同士の「親しき中にも礼儀あり」という見事な「敬語」をやって身につけていく他はなかった。

放研で直面した私の次の課題は「共通語」(当時は標準語と呼んだ)である。中・高を奈良で過ごした私は関西弁がなかなか抜けなかった。同期の友人からも指摘されるのだが、そう簡単に矯正出来るものではない。結局放研での4年間、番組作りでは、アナウンスを担当する事は出来なかった。台本作りや編集を担当したが、期限との斗いで何度も投げ出したくなるような恐怖を味わった。しかし、チームで作品を完成させる喜びは格別だった。何かにつけて祝杯をあげる悪習がついたのもこの頃である。放研での4年間、協調性や忍耐力などが鍛えられたが、難題の共通語も最終年次に何とか話せる様になった。アナウンサーを職業として五十年、今でも人手不足などの折、駆り出されて深夜のラジオニュースを読んでいる。放研で鍛えられた基礎体力の賜と感謝する日々を過している。

平成二十二年度委員長挨拶

善方歩惟

第六十期委員長を務めさせていただいております。善方歩惟でございます。

先日開催致しました春の番組発表会にはOBの先輩方をはじめ、他大学の放送系サークルの方々、新入生等百四十余名もの方々にご来場頂きました。盛大に行われました事に皆さまにお礼申し上げます。

今年度の目標としては個々人の技術の向上だけでなく、とどまらず、放研全体としてのレベルアップ、技術の向上を目指し会員一同若い情熱を持って番組作成等に力を注いで行く所存です。



又、OBの先輩の方々、他大学の放送系サークルの方々との交流も今まで以上に積極的にを行い、外部からの様々な刺激を頂き、それを糧に活動の場を広げたいと思っております。本一年どうぞ宜しくお願い致します。

大学卒業・ハウケン卒業

小田島 香(五十八期)



この文章を始める前に、軽く私の近況報告をさせていただきます。

私はこの春から無事に、中央大学大学院に進学することができました。大学院では、日本文学の特に大正・昭和期を中心に研究しています。日々、発見の連続で、自分自身の無知に呆れながらも、楽しく学生生活を送っています。

実は、昨年まで私は就職活動を行っていました。そもそも、私の将来の目標はテレビ業界で働くことであり、そういった理由から放送研究会に入会したと言っても過言ではありません。この動機が不純なのか、そうでないかは判断しかねますが、放送研究会では「番組を作る・アナウンスを極める」そして、ゆくゆくは…と野望を抱いていました。しかし、野望がそう易々と叶うわけもなく、その後かなり割愛して、今に至るといふことです。

放送研究会での4年間を振り返ると、活動を通して出会った多くの人の顔が思い出されます。OBの皆さんを始め、先輩・後輩、同期はもちろんのこと、他大学の方や、ラジオ局の方に出会い、また番組製作を通して取材させていただいた一般の方々とは五十人を超えるでしょう。こんなにも幅広く人に出会うことのできるサークル活動は、他にはないと自分でも満足しています。

放送研究会という場で、真面目に馬鹿げたことを

してみたり、楽しかったり辛かったり、そうして四年間を過ごすことができて素直に良かったなと思います。結果的には当初の目的とは異なりましたが、ホウケンでの活動があったからこそ、今の私があるような気さえします。時に、濃厚にホウケンでの思い出がフラッシュバックすることもありますが、何十年経っても、ふとそんな瞬間が訪れてくれればいいなと思います。その時には、自分は何をしているのか皆目見当が付きませんが、ただ、放送研究会で培った柔軟さや逞しさを武器に、次のステップに進めることを願うのみです。

今年、五十八期はOBの仲間入りです。OB会の皆様、今後ともどうぞよろしく願ひいたします。何卒お手柔らかに。
(五十八期委員長)

同期会レポート

タテさんを偲ぶ・水上同期会

因田宏紀(十三期)

平成二十一年五月十四日(木)・十五日(金)の両日、放研十三期の十一人プラス一人。計十二人が群馬県に集まった。佐藤猛志、渡邊萬壽男、越満、乗安充和、星勝二、川鍋光利、因田宏紀、前田紘子、蛭田峯代、柳田美根子、水上員子、そして、浪久芳美である。

「放研十三期同期会」は今年で十四回目になる。参加者の多少はあるが、よく続いていると思う。毎

年秋に集まっていたが、今年は水上員子幹事の企画で新緑の季節に「水上号」に乗って「水上温泉」の「水上館」に宿泊。まさに「水上一色」の旅となった。

昨年二月、我々十三期の仲間は浪久(旧姓館村)芳美さん(通称タテさん)の急逝に大きなショックと深い悲しみに包まれてしまった。一昨年秋、京都での十二回目の同期会にタテさんは久しぶりに元気に参加し、タテさんらしい佇まいで存在感を示して来ていたのに、あつという間の他界、余りの突然の出来事に、平成二十年二月八日芝の増上寺で我々は呆然とお見送りをした。

親友の水上員子さんの素晴らしい弔辞にはタテさんへの想いが一杯こめられていて胸が詰まったのを昨日のことのように思い出す。

昨年秋、横浜での十三回目の同期会で、次回は「タテさんを偲ぶ同期会」にしようと決めた。当日は欠席だったが、タテさんの親友水上員子さんに次回幹事をなれば強引に押し付けた。快く引き受けてくれた水上幹事は、タテさんのと新緑の頃に旅した思い出の地、水上温泉に「水上づくし・タテさんを偲ぶ同期会」を実施してくれた。

五月十四日(木)上越線上野発水上号に乗って遠足気分です。温泉に向かう。好天気にもかかわらずかなりの強風の為途中で電車がストップ、急遽振り替えバス移動。「上州



はかかあ天下とカラッ風」我々十三期にふさわしい!?ハプニングもありながら無事水上温泉に到着した。四〇〇年の歴史の重みと由緒ある「水上館」お湯良し、料理良し、酒旨し。食後は賑やかにオケ大会と盛り上がった。写真のタテさんも微笑ながら同席してくれた。翌日は利根川上流の水トを散策し、ロープウェイでまだ雪の残る谷川岳水上駅前まで遅い昼食をとり、心地よい疲れと共に野へ帰る。

十四回を数える「放研十三期同期会」は新緑の馬場水上温泉、天気にも恵まれ最高の思い出深い同期会となった。これもタテさんの存在と親友水ト子幹事らしい気配りが一層素敵な旅に仕上げた。後日、水上幹事が今回の「タテさんを偲ぶ同期会」に過分な御心遣いを頂いたタテさんのご主人久さんに皆の寄せ書きを持って、同期会の様子を告し、我々の思いを届けてくれている。

「タテさんに献杯!!」
小学校、中学校、高等学校、大学、学校時代の級生と会って、元気に親しく語らう喜びが、最近私の大きな楽しみの一つになっている。

二年前の春に、心筋梗塞で心臓を二ヶ所手術、一月後に脳梗塞で救急車で運ばれ、集中治療室で三週間過ごす。医学の進歩と家内の機転で奇跡的に中り、主治医曰く驚異的な回復で、約二年経過した現在、殆ど後遺症も無く、週一、二回大好きなゴルフを楽しむまで元気になっていることに経験の無幸せを感じている、まさに「生かされて生きて、今日の命」である。

次回集合場所は伊豆「淡島ホテル」に決まっ

日本三大〇〇を訪ねて (放研十四期同期旅行会)

長谷部 勲(十四期)

放研第十四期生による旅行会は三年前の但馬、山陰の旅から始まり、翌年は駿河路と奥大井の探訪と続き、それぞれ地元出身者が道案内を勤め、一押し観光スポットを巡りながら旧交を温めてきた。三回目を迎えた昨年は香川県在住の有福君の主催案内で香川・徳島両県をまたぐ旅となった。新型インフルエンザが蔓延しだし、修学旅行などの中止が話題になった五月半ば過ぎ、キャンセルするものがあるかとの懸念を完璧に打ち消し、一年ぶりの懐かしい顔が高松に勢ぞろいした。新型インフルエンザ何するものぞ、という表情で。

バスをチャーターしての三日間の旅は、いま思い起こすと日本三大〇〇に挙げられるものに多く接することができ、観光好きにとっては第一級のコースだった。

ちなみに第一日目はフェリーで小豆島へ渡り、日本三大奇勝のひとつ、寒霞溪と映画二十四の瞳の舞台となった映画村を訪ね、二日目は、高松市内の栗林公園散策と早世した同期の長嶋君の墓参りをした後、日本三大うどんのひとつ、讃岐うどんをいただき、金比羅詣、更に緑深まる国道三十二号線を走り抜け、日本三大秘境のひとつ、祖谷山村の湯宿で、日本三大秘湯のひとつ、祖谷温泉にどっぷりつかかり、囲炉裏を囲み、山の幸、川の幸を堪能した。そして最終日は、日本三大奇橋のひとつ、かずら

橋散策と、日本三大暴れ川のひとつ、四国三郎こと吉野川の船くだりのあと、一気に鳴門まで走り、日本三大急潮流のひとつ、鳴門海峡で観潮船による渦潮見物という三日間であった。

同期による旅行会は、いつの回でも主催幹事による観光協会顔負けの綿密な計画と、心のこもった案内が参加者にとって嬉しく、飾り気のないオマエ、オレがまかり通る現役時代にタイムスリップさせてくれる。それは単にノスタルジーに浸るだけでなく、これまでの社会生活で避けて通れなかった上下関係、利害関係などから解き放たれた心地よさがあり、旅行中は四十年のときの流れを忘れさせてくれるからだろう。互いから元気をもらい、元気を分かち合っているという確かな実感が、回を追うごとに参加者が増えている所以と考える。

旅の終わりにには翌年の再会を誓い、それを日常の励みとしている者が、少なくとも一人いることを白状する。

ホワイトボード

★ゴルフ部会・報告

第二十二回OB会コンペ

平成二十一年九月三日(於武蔵野ゴルフクラブ)

参加16名

- 優勝 塩沢邦男(九期) H 4
- 二位 山本淳一(九期) H 8
- 三位 奥野徳男(八期) H 10

第二十三回OB会コンペ

平成二十一年十一月十二日(於 同右)

参加16名

- 優勝 榛葉 肇(四期) H 26
- 二位 大高善靖(十一期) H 0
- 富田守貞(十五期) H 13
- 若尾英樹(十二期) H 14

平成二十二年度水上さんを偲ぶコンペ

平成二十二年四月二十三日(於 同右)

参加17名

- 優勝 浅見一策(十四期) H 25
- 二位 有松幹夫(十一期) H 32
- 三位 山本淳一(九期) H 7

訃報

清田義雄氏(一期) 平成二十一年十二月二日
杉本容子氏(七期) 平成二十一年七月十七日
謹んでご冥福をお祈り申し上げます

編集後記

紫陽花の咲く頃になりましたが、梅雨入り前の季節が、日は長く、湿度もほどほどで、一番良い頃に思えます。皆様いかがお過ごしでしょうか。マイトーク12号と併せて総会・懇話のご案内をお送り致します。万障お繰り合わせ、上、お出かけ下さい。(A)